



2030年、学びは創造活動になる。

「働くこと」「学ぶこと」「遊ぶこと」は融合され、これからの学びは覚えるより発信で深めるものになります。
「人生100年時代の学び方」 <https://www.works-i.com/research/learning/>

リクルートワークス研究所 主任研究員 辰巳哲子

背景 1 「人生100年」時代において、個人が直面する転機はこれまで以上に頻繁になり、キャリアオーナーシップが必要となる

- **個人の職業寿命はおよそ50年へ**
65才以上の就業率は男性31.8%、女性16.3%（2016年）で、長期的に上昇し続けている（総務省「労働力調査」）。以前は1つの企業でスキルを蓄積すればよかったが、転機が増え学びなおす必要がある。
- **これからの時代「キャリアオーナーシップ」が重要に**
変化の激しい時代に働き続けるには、変化を柔軟に受け入れる事が必要に。一方、働く上で「何を大切にするか」「何を実現したいか」といった、本質的であまり変わらない部分も持ち続けないと、生き生きと働き続けるのは難しい。

現状 2 キャリアオーナーシップを持つためには、学びによって、自分らしさを磨く必要がある。しかし、個人の学びはいまだ「蓄積型」で「画一的」

- **「何をするか」、でなく、「どうあるか」が大切に**
何かを遂行するためにどんなスキルを身につけるか、ではなく、自分らしく「どうあるか」がキャリアの中で大切になる。
- **しかし「蓄積型」「画一的」学びの中で磨くことができるのは「何をするか」に必要な能力**
日本における学びは、学校段階に「蓄積するもの」という考え方が強く、社会人になった後も、世の中の変化にあわせて日々更新したり、変容させるということが少ない。

兆し 3 一方で、近年のテクノロジーの進化は、「働くこと」学ぶことに劇的な変化をもたらし、すでに既成概念にとらわれない子どもたちや一部の人から学びの形は変わりつつある

- **兆し① 「インプット」の省力化がはじまっている**
20代を中心に、例えば「ネット上の要約を読む、動画で解説しているものを探す、詳しい人にSNSで聞く、その後、本を読む」といった知識の吸収に関する省力化が進んでいる。
- **兆し② アウトプット型の学習機会が増えてきた**
 - ・「学び方を学ぶ大学」「学んだことをすぐに使える職場を持つ教育機関」「職場のメンターが学び方を教えるインターンシップ」など、「使うこと」を前提とした学習機会が増加傾向に。
 - ・研修後にSNSで学習継続、本の感想を書籍サイトに投稿する個人も。
 - ・経験履歴による「おすすめ」機能で自分だけの学びメニューの創造が可能に。

未来 4 さらに学習テクノロジーの進化で、学びは循環し、拡大する。未来の学びは、「創造活動になる」

- **さらなるテクノロジーの進化例**
 - ・ブロックチェーン技術を応用した知恵の交換が進む。
 - 学んだことを可視化、個人DBとして蓄積。社会に循環させる。
- **学び=創造活動になる**
 - ・学ぶこととは、人生の一時期において学校や職場等から与えられるものではなく、多くの選択肢のなかから、自分に合った学びを自分で創り出し、誰かと交換したり、協働したりしながら、社会のために使っていくものになる

